

今週の
一冊

博士と狂人

早川書房 本体価格一八〇〇円 鈴木主税訳

サイモン・ウィンチェスター 著

ボランテア活用の先駆
オックスフォード英語大辞典

評者 北村行伸 一橋大学経済研究所助教授

この本の目次

- 1 深夜のランベス・マーシュ
- 2 牛にラテン語を教えた男
- 3 戦争という狂気
- 4 大地の娘たちを集める
- 5 大辞典の計画
- 6 第二独房棟の学者
- 7 単語リストに着手する
- 8 さまざまな言葉をめぐって
- 9 知性の出会い
- 10 このうえなく残酷な切り傷
- 11 そして不朽の名作だけが残った

あとがき
著者の覚書

イギリスの国土は二四・二万平方キロメートル、人口は五八〇〇万人、GDPは約一兆ドルである。一方日本の国土は三七・七万平方キロメートル、人口は一億二五〇〇万人、GDPは約五兆ドルに達している。両国ともに島国であり、よく比較されることがあるが、こと経済力にかんしては、日本がイギリスを凌駕している。しかし、日本が逆立ちしても追いつけないものがある。それは、英語という言語の世界的普及である。

本書はロンドン・タイムズが「グーテンベルクの聖書の印刷以来の最大の出来事」と評したオックスフォード英語大辞典(OED)の作成にかかわった初代編集長マレー氏とその編集作業に最大の貢献をしたアメリカ人マイナー博士の物語である。

この辞典の第一版全一二巻は一八五七年にその計画が提案されて以来一九二八年に完成するまで、実に七〇年以上の歳月が費やされた。この辞典は今日で

もあらゆる意味で英語辞典の模範であり、世界言語となった英語の最善の案内書となっている。その編集方針は、印刷物やその他の記録から英語の「用例」を徹底的に集めて、その用例を引いて、英語のあらゆる語彙の意味がどのように使用されるようになってきたかを歴史的に示すというものである。

この方法で辞典をつくるには新聞にくまなく目を通し、過去の数世紀にわたる英語雑誌や定期刊行物、書籍のうち文学的なものを綿密に調べるといって、気の遠くなるような作業が必要である。それを最終的に可能にしたのは、何百人にも及ぶ無給の篤志協力者、ボランテアからなる編集チームであった。このアイディアには、「新しい大辞典はそれ自身が民主的な作品でなければならず、個人の自由を最優先することを実証する書物でなければならぬ。だれもが、辞典に管理された厳格な規則に従



著者のプロフィール
Simon Winchester
オックスフォード
大学卒業後、新聞
記者となり、ワシ
ントン、ニューヨーク、ニューデリーなどの
特派員をつとめる。現在はニューヨークとロ
ンドンを往來する生活を送りながら、作家・
冒険家として活躍中。『太平洋の悪夢』など、
これまでに6作の著作を発表している。

うことなく、好きな言葉を自由に使えるのだという考え方を、身をもって示すものでなければならぬ」というヴィクトリア時代の思想が色濃く反映されているのである。

このような機会を通して、アメリカの元軍人で殺人犯のマイナー博士がOEDの作成にかかわってくるのだが、詳しいいきさつについては小説よりも面白い本書を読んでのお楽しみということにおきたい。

本書は、ヴィクトリア時代のイギリス社会史としても読めるだろうし、最高水準の英語辞典の生成史と見てもよいだろう。評者は、世紀の大事業を基本的にボランテアの活用によって遂行するという独創的かつ先進的なアイディアの実践の記録として読んだ。

LinuxとOED

ところで、現在、マイクロソフト社を脅かす存在になりつつあるLinuxというコンピュータOASシステムは世界中のプログラマーのボランテア活動によってでき上がってきたものである。しかも、この事業は政府や大企業が企画したものでなく、インターネットを通して自然に広まっていったものである。まさに、このような事業のあり方が今後、さまざまなる分野で有力になってくると注目されて

いる。オックスフォード英語大辞典の編集は、その先駆的な例と見ることができるのである。わが国の文化事業のあり方も、公会堂をつくったり、何も残らない国際会議に多額のお力ネを使つたり、寝たきりの老人から暇を持て余している主婦、向学心に燃えた社会人、生きる目的が見つけられないでいる学生、刑務所に服役中の人、外国にいる日本研究者まで、この時代に息づいているすべての人ひとが自由に参加できる民主的なボランテア・ベースの安上がりな事業へと発想を転換したらどうだろうか。その意味で、ヴィクトリア時代の理想主義的な英語大辞典作成の歴史に見られる熱意、事業の運営の仕方、人材の発掘方法から学ぶものは多い。

ちなみに、本書はリリック・ベッソンが監督し、メル・ギブソン主演で映画化されるそつである。決して堅苦しい本ではないのでぜひ一読をお勧めする。